

健康 ぷらざ

計画を立てて予防接種を —子どもの予防接種—

指導：日本医師会常任理事

雪下 國雄

企画：
日本医師会

No. 215

なぜ予防接種が必要なのでしょう

予防接種は、重い感染症にかかる原因となるウイルス（はしか等）や、細菌（百日せき等）または細菌の作り出す毒素（破傷風等）の力を弱めるなどしてワクチンを作り、それをあらかじめ子どもに接種して、その病気に対する抵抗力（免疫）をつけるために実施します。



生まれてからしばらくは免疫 がありますが…

生まれたばかりの赤ちゃんは、お母さんから病気に対する免疫を受けてきますが、百日せきや水痘（みずぼうそう）では生後約3カ月までに、麻しん（はしか）や流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）では生後約12カ月まででほとんど失われてしまいます。したがって、赤ちゃん自身で病気を予防するために、ワクチン接種で免疫をつけると同時に、他の人への感染拡大を防ぐ努力をしなければなりません。

したがって、赤ちゃん自身で病気を予防するために、ワクチン接種で免疫をつけると同時に、他の人への感染拡大を防ぐ努力をしなければなりません。

かかりつけ医と相談して予防接種を受けましょう

子どもに必要な予防接種は、予防接種法に定められたポリオ、麻しん、風しんの生ワクチンによるものと、ジフテリア・百日せき・破傷風（DPT）、日本脳炎の不活化ワクチンによるものがあります。そのほかに結核予防法で定められたBCGがあります。

法律で定められていない任意の予防接種のうち、子どもに関係あるものとしては、おたふくかぜ、水痘等があります。

接種に際しては、その病気のかかりやすい年齢等を考慮して特に標準接種期間や、ワクチンによる接種間隔が定められていたりしていますので、“かかりつけ医”とよく相談し、あらかじめ予防接種計画を立てておくことが望ましいと思います。

子ども予防接種週間

日本医師会では、日本小児科医会とともに、予防接種率の向上を図るために、毎年3月1日より1週間を「子ども予防接種週間」と定め、休日・夜間を含め、その普及啓発事業を全国で展開しています。ご利用をおすすめします。